

科目名	デッサン実習4						年度	2025	
英語科目名	Drawing practice4						学期	後期	
学科・学年	マンガ・アニメーション科 キャラクターデザインコース 2年次	必/選	選4	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員	山内唯志、田中良太		教員の実務経験	有	実務経験の職種		デッサン指導員		
【科目の目的】 前期で学んだ様々な要素を発展させた授業展開を行う。 後半は想定課題、応用的課題で総合的な描写力の底上げをする。									
【科目の概要】 基本的に2～4週で1課題というペースで授業を進める。 ※カリキュラムは都合により変更されることがあります。									
【到達目標】 この科目では、学生が紙という二次元に鉛筆によって三次元空間を表現するための様々な技術を身につけ、今まで学んできた技術をさらに向上させることが狙いである。プロの目に留まるようなポートフォリオに入れられる作品レベルを目指す。									
【授業の注意点】 <ul style="list-style-type: none"> ・課題提出締め切り日を厳守。・社会への移行を前提としたマナーで授業に参加。 ・忘れ物をしないこと。・大切なことは一番最初に話すので理由のない遅刻・欠席は認めない。 ・作画は量なので多く描けるよう努力すること。 ・授業理解度・課題制作の進捗状況等により授業内容を変更することがあります。 									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう			レベル1 要努力			
到達目標 A	細部まで注意が払われ、精密で正確なディテールが描かれている。		形状や輪郭が適切に表現されている。			形状や輪郭が適切に表現されていない。			
到達目標 B	自らのアイデアや感性を表現し、個性が感じられる作品である。		対象物を正確に観察し、それを効果的に再現している。			対象物への観察不足により的確に再現されていない。			
到達目標 C	受けたフィードバックや修正が適切に取り入れられ、作品が向上している。		受けたフィードバックや修正が取り入れられている。			フィードバックに対する表現がされていない。			
【教科書】 筆記用具、ノート、PC									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 作品提出および授業態度。時限出席率75%以下は課題提出しても不合格となります。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		デッサン実習4			年度	2025
英語表記		Drawing practice4			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	風景デッサン	観察力の向上、 観察力の向上	1 風景デッサン	芸術的な創造性を追求と観察力の向上	3	
2	風景デッサン	観察力の向上、 観察力の向上	1 風景デッサン	芸術的な創造性を追求と観察力の向上	3	
3	風景デッサン	観察力の向上、 観察力の向上	1 風景デッサン	芸術的な創造性を追求と観察力の向上	3	
4	静物デッサン	形状や質感の理解	1 静物デッサン	静物デッサンを通じて、構図やバランスを向上させる	3	
5	静物デッサン	形状や質感の理解	1 静物デッサン	静物デッサンを通じて、構図やバランスを向上させる	3	
6	静物デッサン	形状や質感の理解	1 静物デッサン	静物デッサンを通じて、構図やバランスを向上させる	3	
7	自画像デッサン	技術向上と自己表現	1 自画像デッサン	自画像デッサンを通じて、デッサン技術や絵画技術を向上させる。	3	
8	自画像デッサン	技術向上と自己表現	1 自画像デッサン	自画像デッサンを通じて、デッサン技術や絵画技術を向上させる。	3	
9	自画像デッサン	技術向上と自己表現	1 自画像デッサン	自画像デッサンを通じて、デッサン技術や絵画技術を向上させる。	3	
10	想定デッサン	独自の作品を創り出し 創造性を養う。	1 想定デッサン	アイデアの構築やビジョンの明確化し感性を向上させる。	3	
11	想定デッサン	独自の作品を創り出し 創造性を養う。	1 想定デッサン	アイデアの構築やビジョンの明確化し感性を向上させる。	3	
12	選択課題	これまで学んだ要素を用いた制作	1 選択課題	アイデアの構築やビジョンの明確化し感性を向上させる。	3	
13	選択課題	これまで学んだ要素を用いた制作	1 選択課題	アイデアの構築やビジョンの明確化し感性を向上させる。	3	
14	選択課題	これまで学んだ要素を用いた制作	1 選択課題	アイデアの構築やビジョンの明確化し感性を向上させる。	3	
15	選択課題	これまで学んだ要素を用いた制作	1 選択課題	アイデアの構築やビジョンの明確化し感性を向上させる。	3	

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等

科目名	デッサン実習4						年度	2025	
英語科目名	Drawing practice4						学期	後期	
学科・学年	マンガ・アニメーション科 アニメーションコース 2年次	必/選	選4	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員	水野裕佳	教員の実務経験	有	実務経験の職種	デッサン指導員				
【科目の目的】 この科目では、紙という二次元に鉛筆によって三次元空間を表現するための様々な技術を身につけ、しっかり物を見る力を培い、表現できるようになることが目的である。									
【科目の概要】 基本的に2～4週で1課題というペースで授業を進める。 ※カリキュラムは都合により変更されることがあります。									
【到達目標】 デッサンの基本的要素(構図、明暗の階調、質感、量感、遠近感など)を理解します。また、描写技術と同時にものを見る力(観察眼、審美眼)を養うことで創作活動の基礎を強化することを目的とします。									
【授業の注意点】 授業開始時に実技のポイントなどを説明するので遅刻厳禁。クロッキー帳、鉛筆、練り消しゴムは毎回持参すること。課題作品はできるだけ授業時間内で仕上げるように留意すること。 授業理解度・課題制作の進捗状況等により授業内容を変更することがあります。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう			レベル1 要努力			
到達目標 A	細部まで注意が払われ、精密で正確なディテールが描かれている。		形状や輪郭が適切に表現されている。			形状や輪郭が適切に表現されていない。			
到達目標 B	自らのアイデアや感性を表現し、個性が感じられる作品である。		対象物を正確に観察し、それを効果的に再現している。			対象物への観察不足により的確に再現されていない。			
到達目標 C	受けたフィードバックや修正が適切に取り入れられ、作品が向上している。		受けたフィードバックや修正が取り入れられている。			フィードバックに対する表現がされていない。			
【教科書】 筆記用具、ノート、PC									
【参考資料】 特になし									
【成績の評価方法・評価基準】 作品提出および授業態度。時限出席率75%以下は課題提出しても不合格となります。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		デッサン実習4			年度	2025
英語表記		Drawing practice4			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	模写制作（1）	観察力の向上	1 模写制作	美術作品の鑑賞を通して構図や描写の構造を理解する	3	
2	模写制作（2）	観察力の向上	1 模写制作	オリジナルの魅力的な表現、見所を感じながら制作する	3	
3	構成課題（1）	表現力の向上	1 構成デッサン	モチーフの構成と構図の関係を理解する	3	
4	構成課題（2）	表現力の向上	1 構成デッサン	モチーフの構成と構図の関係を理解する	3	
5	構成課題（3）	表現力の向上	1 構成デッサン	制作意図や狙いについてプレゼンを行う	3	
6	風景スケッチ	観察力の向上、表現力の向上	1 風景スケッチ	奥行きのある風景を描写し、構図と遠近法を理解する	3	
7	人物クロッキー	技術向上と自己表現	1 人物クロッキー	自人体のプロポーション、動きについて理解する	3	
8	ヌードデッサン	技術向上と自己表現	1 ヌードデッサン	基本的な人体デッサンのプロセスを理解する	3	
9	ヌードデッサン(2)	技術向上と自己表現	1 ヌードデッサン	骨格や筋肉の構造を意識して作品を仕上げる	3	
10	静物デッサン	形状や質感の理解	1 静物デッサン	全体の構図、質感の違いを考慮して描写する	3	
11	静物デッサン(2)	形状や質感の理解	1 静物デッサン	全体の構図、質感の違いを考慮して描写する	3	
12	静物デッサン(3)	形状や質感の理解	1 静物デッサン	光源を意識した明暗を理解する	3	
13	石膏デッサン(1)	これまで学んだ要素を用いた制作	1 石膏デッサン	パースや面の向き、立体感を考慮して描写する	3	
14	石膏デッサン(2)	これまで学んだ要素を用いた制作	1 石膏デッサン	質感と重量が感じられるような描写を目指す	3	
15	人物と家具	これまで学んだ要素を用いた制作	1 想定デッサン	室内の広がりや人物の位置関係を意識した描写を行う	3	

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等